

司 式 熊 田 雄 二 牧 師
奏 楽 堀 口 愛 子 姉 妹

前 奏
開 会 招 詞

* 賛 美 歌 39 : 1 わがみの望みは

わがみの望みは ただ主にかかれり 主イエスの他には 依るべき方なし
わが君イエスこそ 救いの岩なれ 救いの岩なれ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)
罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 39 : 2 風いと激しく

風いと激しく 波立つ闇夜も みもとにいかりを おろして安らわん
わが君イエスこそ 救いの岩なれ 救いの岩なれ アーメン

共同の祈禱 祈禱書7 キリストの二性一人格

三位一体の第二位格である神の御子は、まことの永遠の神であり、み父と同質・同等でありながら、時満ちて、人間の性質を、それに属するすべての固有の性質や共通の弱さと共にとられ、しかも罪はなかった。彼は、聖霊の力により、処女マリアの胎に彼女の本質をとって身ごもられた。そこで、二つの十全で区別された性質、すなわち、神性と人性とが、変換・合成・混合することなく、一つ的人格の中に、分離できないように結合されている。この人格は、まことの神またまことの人であり、しかも一人のキリスト、神と人との間の唯一の仲保者である。

(ウエストミンスター信仰告白8章2節によるカルケドン信条：451年)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 新潟伝道所を覚えて 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書5章17～32節 (新約聖書110頁)

説教・祈禱 「罪を赦す権威」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 39：3.4 この世の望みの

この世の望みの 消えゆく時にも 心は動かじ み誓いたのめば
わが君イエスこそ 救いの岩なれ 救いの岩なれ
見ぬ世に移りて まみゆるその時 主の義をまといて み前に立たまし
わが君イエスこそ 救いの岩なれ 救いの岩なれ アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 66世をこぞりて

世をこぞりてほめ讃えよ み栄え尽きせぬあまつ神を アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

古澤兵庫長老

I 癒しの出来事

先週今週の癒しの出来事は神の言葉による奇跡です。① 重い皮膚病の人に「清くなれ」。②中風の人に「起きて床を担ぎ、家に帰れ」。すると、そのようになったのですから、主イエスは神です。また癒しは、病気を治すという言い方でなく、重い皮膚病を「清くする」、中風の人には「あなたの罪は赦された」という宗教的表現です。

きょうの癒しは、特に「罪の赦し」という宗教的権威に関わることです。重い皮膚病の癒しも汚れを清くする宗教的権威だったのですが、中風の癒しに至って、はっきりと罪を赦す権威です。ここに至って、病気のある人もない人も、救い主イエスと関係を持つか持たないかが、決定的な問題となります。神との関係で永遠の問題となります。

II 罪を赦す権威

中風は、何らかの麻痺状態です。自分で動けません。中風の人にはイエスの噂を聞いてなんとかして行きたいと思ったことでしょう。そこで人々に頼んだか、人々の方から親切に動いてくれたか、たぶん両方だと思えますが、男たちが中風の人を床に寝かせたまま、イエスの所へ連れて来たのです。ところが群衆のためにどうしても運び入れる方法がなかったので、屋根に上って、瓦をはいで病人を床ごとつりおろして、群衆の真ん中に、イエスの前に置きました。

イエスは、「その人たちの信仰を見て」罪の赦しを宣言されました。中風の人の信仰も入っていますが、病気の人を連れてきた人たちの信仰も入っています。隣人を愛し、主イエスに期待し、希望を持つ信仰を見て、罪の赦しの宣言をなさったのでした。

すると律法学者や律法主義者が、あれこれ考え始めました。「神を冒瀆するこの男は何者だ？ ただ神のほかに、いったい誰が罪を赦すことができるだろうか」と心の中で考えました。いくら考えても、答えは一つです。神だけが罪を赦すことができるのであれば、イエスは神です！ しかし、イエスが神であることを知っているのは悪霊だけでした。

人が心の中で考えていることを、イエスは見通すことができます。そこで逆に、律法学者や律法主義者たちに質問されました。23節「あなたの罪は赦された」と言うのと、「起きて歩け」と言うのと、どちらが易しいか。」律法学者としては、罪の赦しは神にしかできないから、罪の赦しの方が難しい。罪の赦しを宣言する人は祭司でしたが、それは、神の掟と定めに基づいているもので、祭司自身が罪の赦しの権限を持っていたわけではありませんでした。

中風の人と友人たちは、とにかく癒していただきたいのですが、イエスはまだ、「あなたの罪は赦された」と言っておられるだけです。彼らにとっては、病気を治す方が難しいと言えます。旧約聖書には奇跡的に病気を治すエリヤ、エリシャのような預言者はいましたが、そんな預言者は滅多にいません。

イエスは、罪の赦しと奇跡的な癒しの両方を、言葉で回答なさいました。① 律法学者

には、24節「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう」と宣言なさいました。すなわち、ここで言う「人の子」とはキリストの称号ですが、神の子です。「地上で罪を赦す権威」とは、すなわち、天の神の御子が地上に降りて赦す権威です。

② そしてイエスは中風の人にはv24b「私はあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」と宣言なさいました。すると、「その人はすぐさま皆の前で立ち上がり、寝ていた台を取り上げ、神を賛美しながら家に帰って行った」のです。26節、「人々は皆大変驚き、神を賛美し始めた。そして、恐れに打たれて「今日、驚くべきことを見た」と言いました。イエスに神を見たのです。まだイエスが神であることをはっきり認識してはいませんでした。群衆は、これは神の業だと讚美したのです。

Ⅲ 罪人を招くため

次の段落、十二弟子の一人「レビを弟子にする」エピソードは、罪の赦しに関するもう一つの記事です。レビとは、マタイ福音書ではマタイという人です。マタイは、ユダヤ人ではありますが、ローマ帝国の税務署の役人です。あるいは役人の下請けです。まじめにやれば正当な仕事ですが、役職を利用して不当な利益を貪ると盗人です。実際、役人の横領が多いのが世の常です。

だから、ユダヤ人は、「徴税人や罪人」とひとくくりにして呼んでいました。むしろ、通常の罪人よりひどいと思っていました。ユダヤを征服したローマ帝国に仕えながら、同胞のユダヤ人から盗み取る罪人です。売国奴より悪質でした。消費税は10%なのに15%だと言って、5%分は自分の懐に入れるような、悪質な徴税人が多かったようです。ユダヤ教は、徴税人が会堂に入ることを禁じていました。

マタイは一応役人であれば、12弟子の中では、最も読み書きそろばんができる人です。税務署の仕事なら法律にも詳しいでしょう。マタイ福音書は、そういう素養をもった人の書物です。旧約預言の実現という書き方は、当然、旧約聖書に精通しています。ローマ法に精通しているだけでなく、聖書の律法にも精通しています。

しかし、通常、ユダヤ人の方から徴税人には近づきません。そこでマタイは、イエスのような聖なる人が近づいて声をかけてくれるとは思ってもいなかったでしょう。「私に従いなさい」とイエスに言われて、すぐ「何もかも捨てて立ち上がり、イエスに従った」のです。「いっさい」捨てる中でも、特に役人の特権を捨ててイエスに従うことになりま。それを決心しました。

そしてまず、感謝と喜びに満ちて「自分の家でイエスのために盛大な宴会を催した」のです。「何もかも捨ててイエスに従った」のに、まだ宴会をやるお金があるのかという感じですが、「何もかも捨てて」とは、何もかもイエス様のために用いるということです。他の税金取りやその他大勢も招いたので、「伝道愛餐会」です。伝道とはせずにおれないものです。イエスはいっしょに食事するほど近づいてくださいました。マタイにとって大きな驚きと喜びだったでしょう。マタイは、同業の仲間たちに、献身の決意を表明する場となりました。

大勢招いて食事会ができるほど大きな家をマタイは持っていたわけですが、この光景を面白くないと思ったのは、熱心な律法主義ファリサイ派の人々でした。30節「なぜ、あなたたちは、徴税人や罪人などと一緒に飲んだり食べたりするのか」と弟子たちに言ったの

です。しかし、これには先生のイエスが直接お答になりました。31～32節「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である。私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」。これは、私たちの礼拝で毎週語られる罪の赦しの宣言です。

礼拝は招きの言葉から始まります。罪人を招く神の愛から始まります。だから、罪人の私を招いて赦そうとしてくださる神に向かって礼拝する者は幸いです。そのような者は、マタイと同じように赦されて、その賜物が活かされて、尊い働きに与かるようになるのです。